仕事の満足度を左右するのは，仕事内容か，人間関係か

～ISSP国際比較調査「仕事と生活」・日本の結果から～

世論調査部　村田ひろ子

NHK放送文化研究所が加盟する国際比較調査グループISSPが，2015年に実施した調査「仕事と生活」の結果から，日本人の仕事観や仕事の満足度の背景について探った。

「正規雇用」で働くことを希望する人が多いのは男性の若年層や中年層で，70％台から80％台を占める。一方，女性の中年層では「正規雇用」を望むのは40％前後にとどまる。

仕事にストレスを感じている有職者は47％で，特に労働時間が長い人や部下がいる人，職場での人間関係が悪いと感じている人で多くなっている。その一方で，自分の仕事が「社会の役に立つ」「おもしろい」という人も40％台から50％台いて，「仕事に満足」している人は60％に達する。仕事の満足度には，ストレスの有無や雇用の安定性など，さまざまな条件が関係しているが，特に仕事のおもしろさや職場の人間関係，勤め先への誇りと強い関係がみられる。正規雇用，非正規雇用を分けてみても，いずれもこうした項目の影響が大きいことがうかがえる。

1　はじめに

（1）問題意識

NHK放送文化研究所が参加している国際比較調査グループISSP（International Social Survey Programme）では，世界約50の国・地域の研究機関が毎年特定のテーマ，共通の質問文で世論調査を行っている。2015年のテーマは「仕事と生活」で，このテーマで調査するのは，1989年，1997年，2005年に続き4回目，日本では97年以降3回目となる。今回の調査は，2008年のリーマンショック後，多くの国で経済状況が低迷し雇用問題が深刻化するなか，失業の心配や仕事の満足度など，人々の仕事に対する意識を探ろうとしている。

日本では近年，労働環境が大きく変わっている。90年代初めのバブル経済崩壊後，雇用者に占める非正規雇用の割合が大きく増えた[1)]。また，急速な少子高齢化で生産年齢人口が減り，高齢者や女性の労働力に注目が集まっている。

働く人々の職場環境も厳しさを増している。2014年度に，仕事のストレスによるうつ病などで労災が認められたのは497件[2)]，全国の労働局に寄せられた職場におけるいじめや嫌がらせの相談件数は6万件超[3)]と，ともに過去最多となっている。

雇用環境が変化するなか，人々の仕事観はどうなっているのだろうか。本稿では，2015年10月末から11月初めにかけて実施した「仕事と生活」調査の日本の結果から，日本人の仕事への態度を概観する。雇用形態が多様化

し，職場環境が厳しさを増すなか，人々は自分の仕事をどう評価しているのか。仕事の満足度の背景にあるのは，仕事の内容なのか，あるいは人間関係なのか。さらに，雇用形態によって仕事の満足度に影響を与える要因が異なるのかを探る。

(2) 調査の設計

調査は大きく分けて，1.調査対象者全体，2.有職者，そして3.無職の人に尋ねる質問で構成されている。この設計は，「仕事と生活」をテーマに調査を始めた1989年からおおむね引き継がれている。

2015年調査では，仕事をするうえで重要なことや仕事の満足感など，時系列比較が可能な継続質問に加えて，ワーク・ライフ・バランスをはじめ，日本が提案した「ハラスメント」（嫌がらせ）や「高齢者の雇用」についての質問が新たに盛り込まれた。

今回の日本の調査は配付回収法で行っているため，個人面接法で実施した1997年や2005年の調査結果と直接比較することはできないが，適宜，分析の参考にしたい。調査の概要，単純集計結果およびサンプル構成は，文末83～89ページに掲載している。

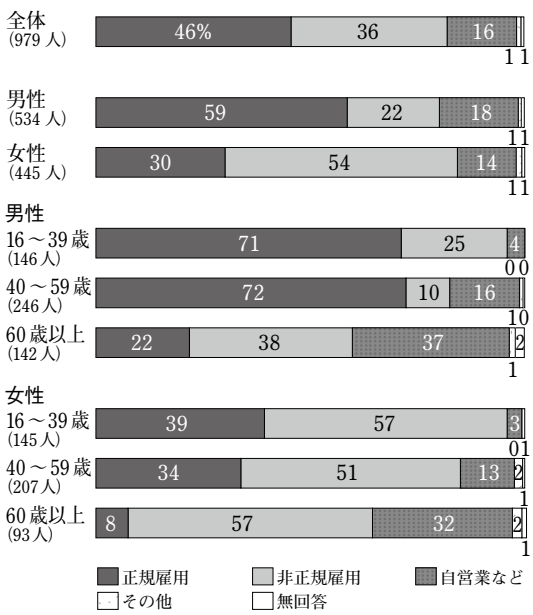
(3) 分析の対象について

本稿では，調査対象者全体に尋ねた質問のうち，仕事観を取り上げた項目について報告した後，分析対象を「現在，収入を得るための仕事をしている」と回答した人（以下，有職者）にしぼって，仕事の評価や満足度の背景をみていく。

まず，分析の前提となる有職・無職のサンプル構成比，そして有職者の就労形態と労働時間についてみておきたい。

有職者は全体の62%，無職は37%となっている。有職者を就労形態別にみると，「正規の職員または従業員」（以下「正規雇用」）は46%，パートや契約社員，派遣社員等（以下「非正規雇用」）は36%となっている（**図1**）。男性では，正規雇用が60%近くを占め，非正規雇用は22%にとどまる。一方，女性では正規雇用が30%で，非正規雇用が54%と過半数を占める。男女年層別にみると，男性では50代以下の若年層や中年層で正規雇用が多く，70%を上回っている。女性ではどの年層においても，非正規雇用が半数を超えて多くなっている。

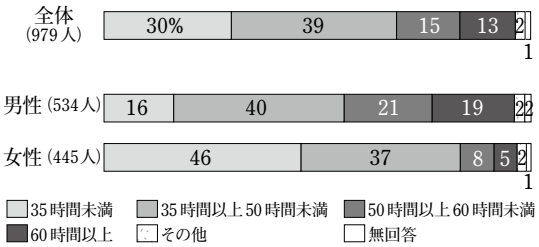
図1　就労形態（有職者全体，男女，男女年層別）



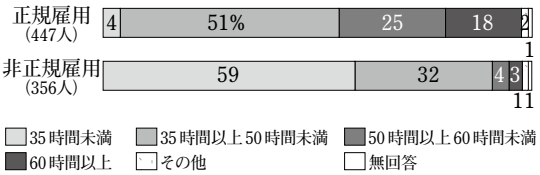
労働時間についてみると，女性よりも男性で労働時間の長い人が多い。男性のうち週に50時間以上60時間未満働いているのは21%で，60時間以上働いている人も19%いる（**図2**）。女性では，週に35時間未満働いている短時間

図２　１週間の労働時間

（有職者全体，男女）



（「勤めている・雇用されている」人，雇用形態別）



労働者が46％と半数近くを占める一方で，60時間以上働く人は5％にとどまる。

自営業を除く有職者についてみると，正規雇用では週に35時間以上働いている人が大多数なのに対し，非正規雇用では35時間未満が6割近くを占める。

こうした基本属性をふまえて，分析をすすめていく。

2　仕事観

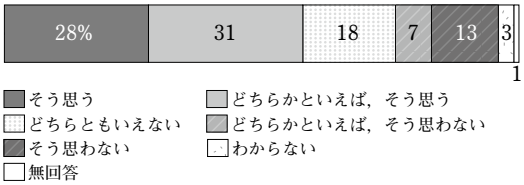
（1）希望する働き方

はじめに仕事観について，調査対象者全体に尋ねた結果をみていく。

「たとえ，お金を稼ぐ必要がなくても，仕事を持ちたい」と思うかどうかを尋ねたところ，「そう思う」という人は28％，「どちらかといえば」をあわせると58％になる[4]（**図3**）。過半数が，収入を得る必要がなくても仕事をしたいと考えている。

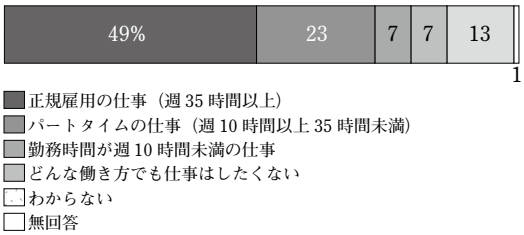
図３　お金を稼ぐ必要がなくても，仕事を持ちたいか

（全体）



「今，働き方を選べるとしたら，どれを選ぶか」，正規雇用やパートタイムの仕事など，4つの選択肢を示して尋ねたところ，「正規雇用の仕事」が49％と半数近くに上る一方，「パートタイムの仕事」は23％となっている（**図4**）。

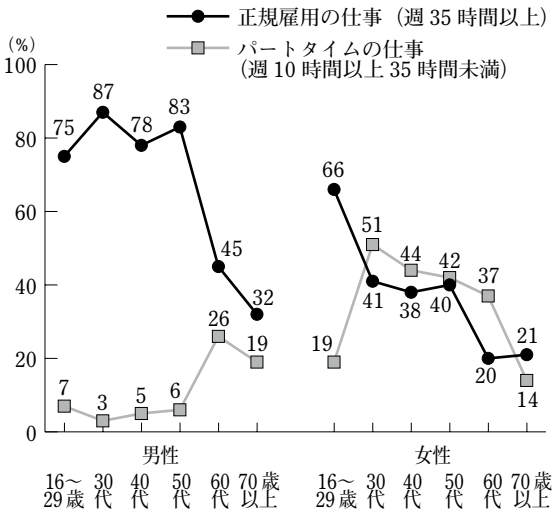
図４　働き方の選択（全体）



男女年層別に結果をみると，男性と女性とでグラフの折れ線の形がまったく異なっている（**図5**）。「正規雇用の仕事」を望む人が多いのは，男性では50代以下で，70％台から80％台を占める。女性16～29歳についても66％と多くなっている。その一方で，女性の30代から50代では「正規雇用の仕事」を望むのは40％前後にとどまる。「パートタイムの仕事」については40％台から50％台で，同じ年層の男性と比べてかなり多い。

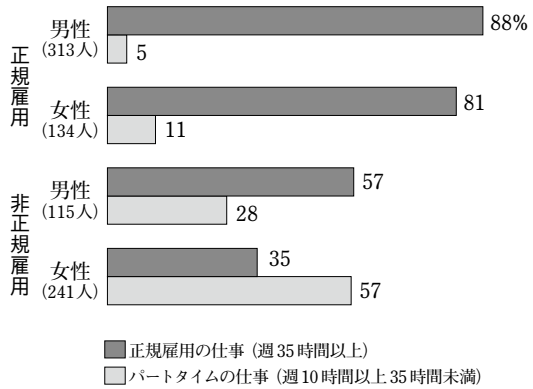
自営業を除く有職者をみると，正規雇用者で，同じ「正規雇用の仕事」を希望するのは男女ともに80％を超えている（**図6**）。他方，非正規雇用者で「正規雇用の仕事」を希望してい

図５　働き方の選択（男女年層別）



る人は，相対的に少ない。特に女性では35％となっていて，パートタイム希望の57％を下回っている。非正規雇用の男性では，正規雇用の男性には及ばないものの，60％近くが正規雇用を希望している。

図６　働き方の選択
（「勤めている・雇用されている」人，雇用形態別）

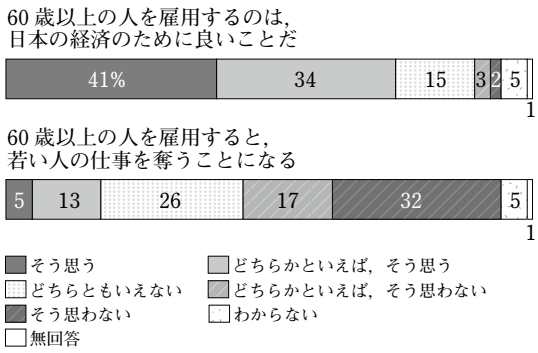


非正規雇用に就いた理由を尋ねた総務省の労働力調査によれば，「正規の職員・従業員の仕事がないから」という男性は27％だったのに対し，女性では12％にとどまる[5]。その一方で，「自分の都合のよい時間に働きたいから」（28％），「家計の補助・学費等を得たいから」（25％），「家事・育児・介護等と両立しやすいから」（17％）という女性が多くなっている。今回のISSP調査で，非正規雇用の女性の多くが「パートタイム」を希望している背景には，自分の都合にあった働き方を重視している人が多いことがあるのかもしれない。

（2）高齢者の雇用

高齢社会を迎え，高齢者の雇用が促進されるなか，60歳以上の人の雇用についてどう思うかを尋ねた。「60歳以上の人を雇用するのは，日本の経済のために良いことだ」については，「どちらかといえば」をあわせて『そう思う』が75％を占める（**図7**）。高齢者の雇用については，肯定的な人が多いことがわかる。また，「60歳以上の人を雇用すると，若い人の仕事を奪うことになる」については，「どちらかといえば」をあわせて『そう思わない』が49％で，『そう思う』の18％を上回る。

図７　高齢者の雇用（全体）



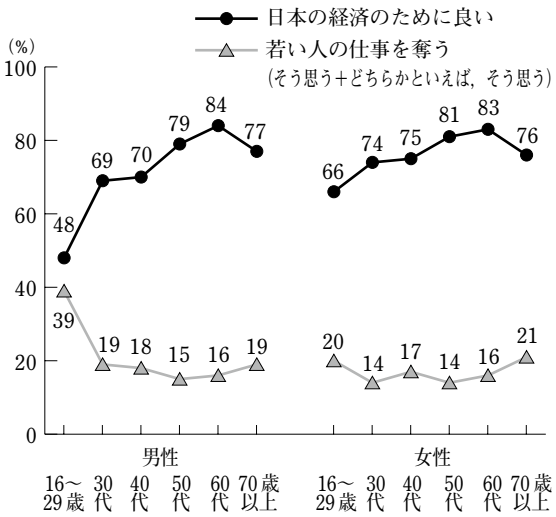
この結果を男女年層別にみると，60歳以上の人を雇用することについて，「日本の経済の

ために良いことだ」は男女とも60代で80％超と全体より多い。男性16～29歳を除く他の年層でも60％を超えている（**図8**）。

また，60歳以上の雇用が「若い人の仕事を奪う」と考えるのは，男女ともほとんどの年層で20％以下だが，男性16～29歳では40％近くに上る。

高齢者の雇用が日本経済にとってプラスになると考える人は，どの年層においても多数派を占めるものの，男性の若年層では他の年層と比べて少ない。また男性若年層では，仕事を奪われかねないと思っている人が他の年層に比べて多い。

図8　高齢者の雇用（男女年層別）



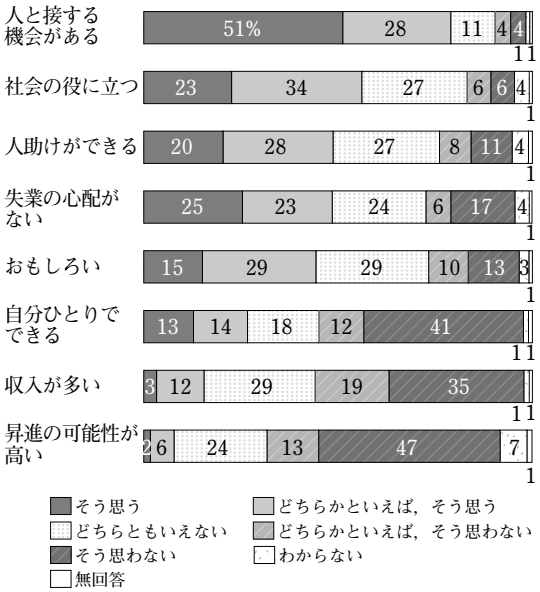
3　仕事や職場への態度

（1）仕事や勤め先への評価

◆自分の仕事は「社会の役に立つ」が過半数

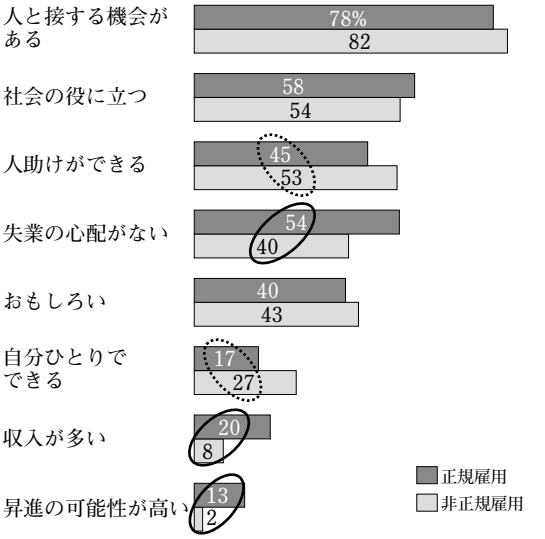
ここからは，分析対象を有職者にしぼって結果をみていく。現在就いている仕事について，**図9**に挙げた8つの項目で評価してもらった。「どちらかといえば」をあわせて『そう思う』が最も多いのは，「人と接する機会がある」で79％に上る（図9）。次いで「社会の役に立つ」56％，「人助けができる」49％となっていて，仕事を通じて人と接したり，社会に貢献できたりすると考える人が多い。一方で『そう思う』が少ないのは，「昇進の可能性が高い」8％，「収入が多い」15％といった所得と関連のある項目である。調査方法が異なるため，直接比較はできないが，所得に関する項目で『そう思う』が少ない傾向は，1997年，2005年調査と変わっていない。

図9　現在就いている仕事への評価（有職者全体）



雇用形態別にみると，正規雇用の人では非正規の人よりも「失業の心配がない」「収入が多い」「昇進の可能性が高い」で，「どちらかといえば」をあわせて『そう思う』が多く，雇用や収入の安定にかかわる項目で差が出ている（**図10**）。

図10　現在就いている仕事への評価
『そう思う（どちらかといえばを含む）』
（有職者　雇用形態別）



図中の○は，正規雇用と非正規雇用を比較した検定結果（信頼度95%）であり，正規雇用のほうが高ければ実線で，非正規雇用のほうが高ければ点線で示した。

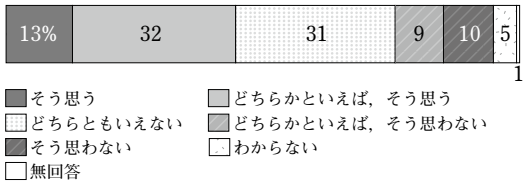
非正規雇用は，景気が悪くなれば人員削減の“調整弁”として使われやすいなど，雇用が不安定である。2013年施行の改正労働契約法では，同じ職場で5年を超えて働いた非正規雇用者の申し出により，期限のない労働契約にすることが義務づけられた。しかし，最大5年の雇用期間が満了となる前に契約を解除されることへの不安が広がっている。また，2015年施行の改正労働者派遣法についても，これまで派遣期間の制限がなかった専門業務で雇用期間が3年に限定され，こうした人々が同じ職場で働き続けられなくなることが懸念されている。今回の調査で，「失業の心配がない」と考える非正規雇用者が少ないのは，非正規の雇用の不安定さが表れた結果だと考えられる。

◆非正規よりも正規雇用で多い，勤め先に誇りを感じている人

「今勤めている企業や組織で働いていることに誇りを感じる」かどうかを尋ねたところ，「どちらかといえば」をあわせて『そう思う』という人は45%である（**図11**）。

男女年層別にみても『そう思う』という人の割合に違いはない。但し雇用形態別にみると，『そう思う』つまり誇りを感じているのは，正規雇用で47%となっていて，非正規雇用の37%を上回っている。

図11　勤めている企業や組織に誇りを感じるか
（有職者全体）

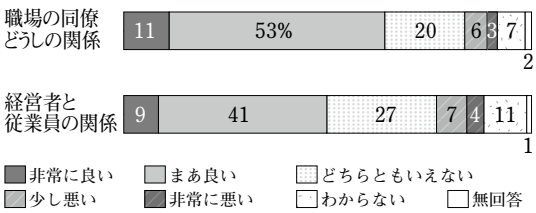


（2）職場の人間関係とストレス

◆職場の同僚どうしの人間関係が「良い」64%

「職場の同僚どうしの関係」また「経営者と従業員の関係」がうまくいっているかどうかを尋ねた。「同僚どうし」については，「非常に良い」「まあ良い」をあわせて『良い』という人が64%と多数なのに対し，『悪い』（非常に+少し）は8%にとどまる（**図12**）。

図12　職場の人間関係（有職者全体）

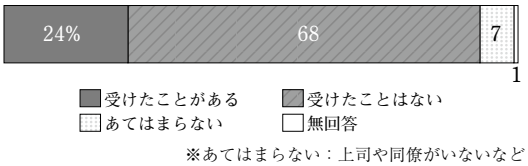


「経営者と従業員」についても『良い』が50％となっていて，『悪い』の12％を大きく上回っているが，「経営者と従業員」の人間関係を『良い』と評価している人の割合は，「同僚どうし」より少ない。

◆有職者の４人に１人が「ハラスメントを受けたことがある」

この5年の間に，職場の上司や同僚から，いじめや身体的・精神的な攻撃といったハラスメント（嫌がらせ）を受けたかどうかを尋ねた。ハラスメントを「受けたことがある」のは有職者の24％，4人に1人となる（**図13**）。男女別にみると，ハラスメントを受けたという人は，女性で30％となっていて，男性の19％を上回る。男女年層別にみると，ハラスメントを受けた経験が多いのは，女性16～39歳（32％）と40～59歳（33％）である。

図 13　ハラスメントを受けた経験（有職者全体）

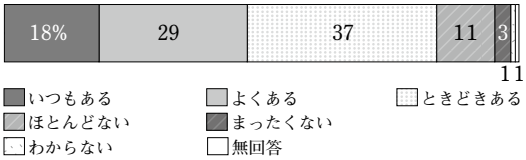


◆仕事にストレスを感じる 47％

仕事にストレスを感じることがどの程度あるかを尋ねた結果，「いつも」「よく」をあわせて『ある』という人が47％と半数近くである（**図14**）。

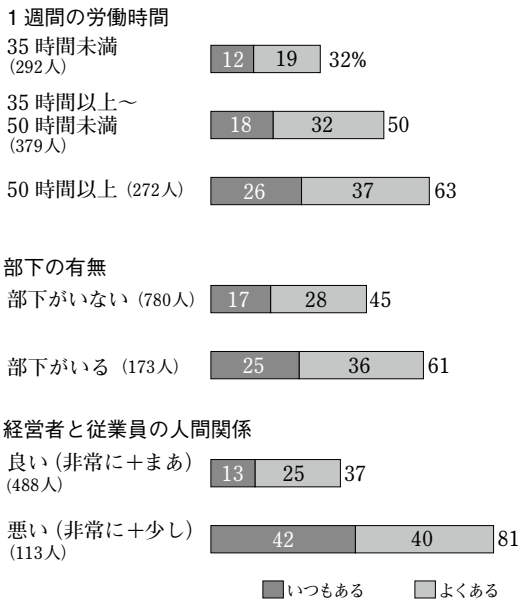
男女年層別にみると，ストレスを感じることが『ある』という人は，男性16～39歳で60％，40～59歳で55％となっていて全体より多い。一方で『ある』が少ないのは，男女ともに60歳以上の高年層で，いずれも30％程度となっている。

図 14　仕事にストレスを感じることがあるか
（有職者全体）



このほか，ストレスを感じる人の割合が特に高いのは，1週間に50時間以上仕事をしている人で63％，部下がいる人の61％，さらに経営者と従業員の関係が悪い人では81％に上る（**図15**）。

図 15　仕事にストレスを『感じる（いつも＋よく）』
（有職者　労働時間・部下の有無・人間関係別）



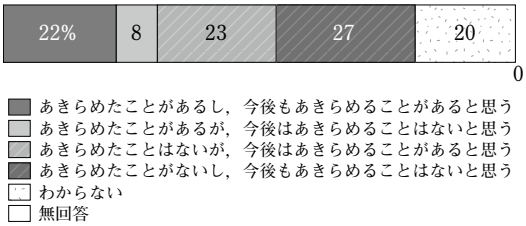
(3) ワーク・ライフ・バランス

◆子どものいる女性で多い「仕事上のチャンスをあきらめたことがある」

ワーク・ライフ・バランスの重要性が各国で謳われるなか，先に触れたとおり2015年調査

では，家庭生活と仕事について尋ねる項目が追加された。家庭生活のために仕事上のチャンスを「あきらめたことがあるし，今後もあきらめることがあると思う」と考える人は22％，「あきらめたことがあるが，今後はあきらめることはないと思う」は8％で，あわせて30％が仕事上のチャンスをあきらめた経験を持っている（**図16**）。

図16　家庭生活のために仕事上のチャンスをあきらめるか（有職者全体）



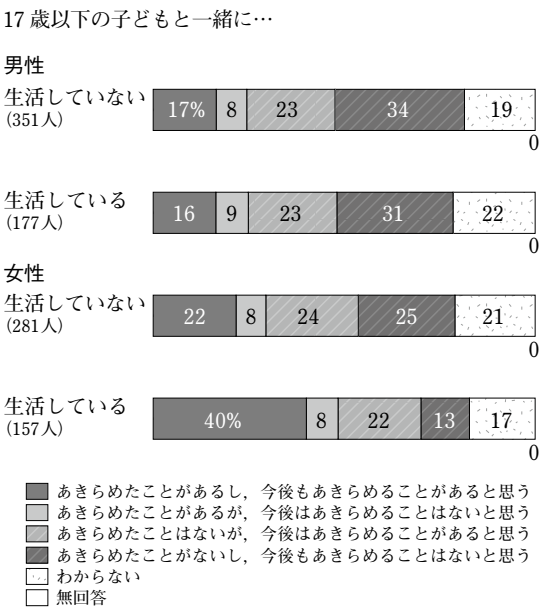
男女年層別にみると，「あきらめたことがあるし，今後もあきらめることがあると思う」という人は，女性40～59歳で33％となっていて，全体より多い。

さらに女性については，子どもの有無で顕著な差がある。17歳以下の子どもと生活しているかどうか別の結果を**図17**に示した。子どもがいる女性では，「あきらめたことがあるし，今後もあきらめることがあると思う」という人が40％に上り，子どものいない女性の22％より多い。

一方，男性では子どもの有無にかかわらず，「あきらめたことがあるし，今後もあきらめることがあると思う」という人は20％未満で違いがない。

この結果は，子どものいる女性が，育児のために仕事上のチャンスを「あきらめている」状況を示唆している。なお今回の調査では，介護に従事しているかどうかを尋ねていないため

図17　家庭生活のために仕事上のチャンスをあきらめるか
（有職者男女・17歳以下の子どもと一緒に生活しているかどうか別）

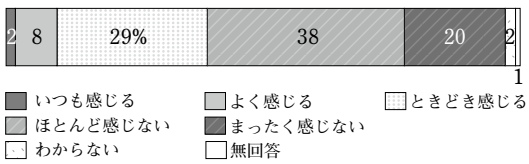


分析はできないが，介護のために仕事上のチャンスを「あきらめている」女性も多いのではないだろうか。

◆「仕事が，家庭生活の妨げになる」39％

「仕事が，家庭生活の妨げになる」と感じるかどうかを尋ねたところ，『感じない』と答えた人は，「まったく」「ほとんど」をあわせて58％に達し，過半数となっている（**図18**）。一方で『感じる』は，「いつも」「よく」「ときどき」をあわせて39％である。

図18　仕事が，家庭生活の妨げになるか
（有職者全体）



男女年層別にみると，「仕事が，家庭生活の妨げになる」と『感じる』人は，女性16～39歳で49％と全体より多い一方で，男女ともに60歳以上の高年層で20％台にとどまる。

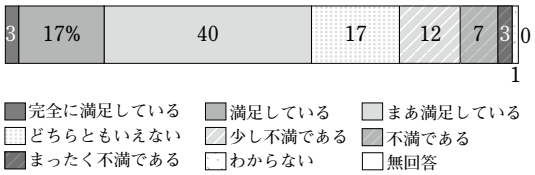
また，週に50時間以上働いている人や17歳以下の子どもと生活している人で，『感じる』がいずれも半数近くとなっていて，全体より多くなっている。

(4) 仕事の満足度

◆仕事に満足している60％

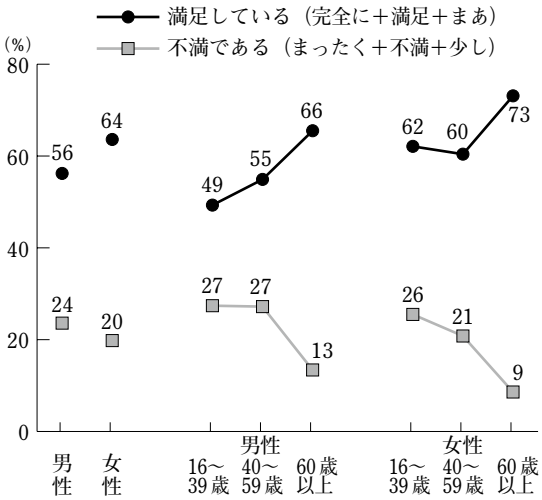
多くの有職者が，収入を多いとはとらえておらず，ストレスを抱えて仕事に取り組んでいることに触れたが，人々は果たして仕事に満足しているのだろうか。今の仕事にどのくらい満足しているかを尋ねたところ，『満足している』という人は，「完全に満足」「満足」「まあ満足」をあわせて60％で，『不満である』（まったく不満，不満，少し不満）の22％を大きく上回っている**(図19)**。

図19　仕事への満足度（有職者全体）



男女別にみると，女性で『満足している』という人が64％で，男性の56％より多い**(図20)**。男女年層別にみると，男性では高年層ほど「満足している」という人が多い傾向があり，女性については60歳以上で「満足している」が73％に上る。なお，雇用形態別にみても満足度に違いはなく，正規雇用では56％，非正規雇用では57％と，それぞれ過半数が仕事に満足している。非正規雇用のうち，正規雇用の仕事を希望している人の満足度をみると55％で，パートタイムの仕事を希望している人の60％と比べて統計的な差がない。つまり，今回の結果をみる限り，非正規雇用の人々の仕事の満足度は，正規雇用を望んでいるかどうかによる違いはない。

図20　仕事への満足度（有職者男女・男女年層別）



◆満足度に強い影響力を持つ，仕事のおもしろさ，人間関係，勤め先への誇り

先行研究には，仕事の満足度に影響を持つ項目として，雇用形態にかかわらず「雇用安心感」や「ワーク・ライフ・バランス」などが挙げられると指摘するものがある[6)]。

ここからは，仕事の満足度が仕事そのものへの評価によって説明されるのか，あるいは職場の人間関係などの環境によって影響を受けるのか，また正規雇用と非正規雇用の間で仕事の満足度に影響を与える要因が異なるのかを探る。

仕事の満足度に影響している項目を包括的に探るために，仕事の満足度を従属変数として，労働実態や仕事の評価を独立変数とする重回帰分析を行った（**表1**）。表中の数値は標準偏回帰係数で，絶対値が大きい変数ほど，仕事の満足度への影響が大きいことを表している。独立変数には，雇用の安定性を測る項目として「失業の心配がない」を用いたほか，仕事内容の評価として「仕事のおもしろさ」を，人間関係として「職場の同僚どうしの関係」，ワーク・ライフ・バランスとして「仕事が，家庭生活の妨げになること」，さらにストレスの有無や「今勤めている企業や組織で働いていることに誇りを感じるか」などを用いた。

全体の結果をみると，仕事の満足度にはストレスの有無や仕事が家庭生活の妨げになっているかなど，さまざまな規定要因が浮かび上がったが，なかでも「仕事のおもしろさ」が満足度と強い関係がある。つまり仕事がおもしろいと，仕事の満足度が高くなる。このほか，職場の人間関係や勤め先への誇りについても，満足度に強く影響している。

雇用形態別にみると，正規雇用でも仕事のおもしろさの影響が強い。このほか，人間関係が良い人や，企業や組織に誇りを感じている人，ストレスがない人で満足度が高くなる。

非正規雇用でも，仕事のおもしろさのほか，人間関係や企業や組織への誇りが仕事の満足度と強い関係がある。また，仕事が家庭生活の妨げになっていない人や失業の心配がない人，ストレスがない人で，仕事の満足度が高くなる。

正規雇用でも非正規雇用でも共通して満足度に影響しているのは，仕事のおもしろさや人間関係，組織への誇り，そしてストレスの有無である。一方，非正規でのみ満足度と関係があったのは，「失業の心配」と「仕事が家庭生活の妨げになるか」である。非正規では雇用が不安定なために，失業の心配がないことが仕事の満足度に影響しているのだろう。また，非正規で働く人は女性や短時間労働者に多く，自分の都合にあった働き方を重視する人が多いために，仕事と家庭生活の調和が仕事の満足度に影響しているのかもしれない。

表1　仕事の満足度についての重回帰分析

独立変数		備考	全体	正規雇用	非正規雇用
基本属性・労働実態	性	1：女性	0.01	− 0.01	0.02
	年齢		0.08**	0.07	0.05
	1週間の労働時間		− 0.05	− 0.04	− 0.02
雇用の安定性	失業の心配がない（第12問A）	1：そう思う（どちらかといえばを含む）	0.09**	0.05	0.14**
職場に関する意識	企業や組織に誇りを感じる（第24問B）	1：そう思う（どちらかといえばを含む）	0.20**	0.26**	0.22**
仕事への評価	おもしろい（第12問D）	1：そう思う（どちらかといえばを含む）	0.33**	0.32**	0.27**
人間関係	職場の同僚どうしの関係（第22問B）	1：良い（非常に＋まあ）	0.25**	0.29**	0.25**
ストレス	ストレスを感じること（第13問B）	1：ない（まったく＋ほとんど）	0.13**	0.13**	0.12*
ワーク・ライフ・バランス	仕事が，家庭生活の妨げになること（第19問A）	1：感じない（まったく＋ほとんど）	0.11**	0.07	0.16**
		調整済み R2 乗	0.42	0.42	0.40
		F 値	81.32**	73.54**	33.36**
		N	792人	399人	292人

$p < 0.01^{**}$　$p < 0.05^{*}$

4 おわりに

仕事の満足度が，職場の人間関係や組織への誇り，ストレスの有無といったさまざまな条件と関係があり，雇用形態によって多少違いはあるものの，仕事のおもしろさと強い関係があることをみてきた。また，雇用形態にかかわらず，同僚どうしの人間関係も満足度に影響しており，良い人間関係のなかで，おもしろい仕事をしたいという意識が表れた結果だと言えよう。

「日本人の意識」調査によれば，理想とする仕事の条件として「仲間と楽しく働ける仕事」を重視する人々は，労働時間や失業の心配，収入などをおさえて最も多くなっている[7)]。仕事のおもしろさや人間関係が，仕事の満足度に影響を持つことを示唆した今回の結果は，多くの人が「仲間と楽しく仕事がしたい」という価値観を持っていることを裏づけているのではないだろうか。

従業員の仕事の満足度が高まることで，労働生産性やサービス，さらに企業イメージが向上するという指摘がある[8)]。企業にとっては，イメージが向上することにより，優秀な人材が定着するとともに，新規採用でも有利になる。良好な人間関係のなかで，おもしろい仕事に携わって各々の仕事の満足感が高まるとすれば，労働者一人一人にとどまらず，企業や組織にとっても大きなメリットが得られるだろう。

仕事のおもしろさや人間関係，そして帰属する組織への誇りが仕事の満足度と強い関係があるのは，日本人ならではの特徴なのか。また，国によって仕事の満足度を説明する項目は異なるのか。各国のデータが揃った時点で改めて検証したい。

（むらた ひろこ）

注：

1) 総務省の「労働力調査」によれば，雇用者に占める非正規雇用の割合は，1990年代初めは20％程度だったのが，2015年には40％近くにまで上昇している。

2) 厚生労働省，2015，平成26年度「過労死等の労災補償状況」

3) 厚生労働省，2015，平成26年度「個別労働紛争解決制度施行状況」

4) 回答結果をまとめる場合は，実数で足し上げて％を計算しているため，単純に％を足し上げた数字と一致しないことがある（以下同）。

5) 総務省，2016，「労働力調査（詳細集計）平成27年（2015年）平均（速報）」

6) 奥西好夫，2008，「正社員および非正社員の賃金と仕事に関する意識」，『日本労働研究雑誌』第576号

7) NHK放送文化研究所編，2015，『現代日本人の意識構造［第八版］』，NHK出版

8) 生田孝史・魚住隆太・倍 和博，2010，「CSRと健康経営」，田中滋・川渕孝一・河野敏鑑『会社と社会を幸せにする健康経営』，勁草書房

「仕事と生活についての国際比較調査・2015」 単純集計結果

【調査の概要】

調査目的	仕事の満足度，失業の心配，就職の希望など，人々の仕事に対する意識を探る
調査時期	2015 年 10 月 24 日（土）～ 11 月 1 日（日）
調査方法	配付回収法
調査対象	全国 16 歳以上の男女
調査相手	住民基本台帳から層化無作為 2 段抽出 2,400 人（12 人× 200 地点）
調査有効数（率）	1,573 人（65.5%）

―仕事についての考え方―

第 1 問　あなたは，仕事に対する次の A，B の意見について，そう思いますか，それともそう思いませんか。それぞれについて 1 つずつ○をつけてください。

（%）	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 仕事は収入を得るための手段であって，それ以外の何ものでもない	15.9	27.1	18.7	12.3	23.2	1.7	1.1
B. たとえ，お金を稼ぐ必要がなくても，仕事を持ちたい	27.5	31.0	17.5	7.1	13.0	2.6	1.4

―仕事をするうえで重要なこと―

第 2 問　次の A から I について，あなたは，仕事をするうえでどの程度重要だとお考えですか。それぞれについて 1 つずつ○をつけてください。

（%）	1. 非常に重要である	2. 重要である	3. どちらともいえない	4. 重要ではない	5. まったく重要ではない	6. わからない	7. 無回答
A. 失業の心配がないこと	35.2	48.3	8.4	3.7	0.9	2.4	1.1
B. 収入が多いこと	19.9	54.7	17.7	4.3	0.4	1.9	1.1
C. 昇進の可能性が高いこと	5.0	22.6	37.1	25.4	5.3	3.5	1.1
D. おもしろいこと	20.9	48.8	20.9	4.7	0.7	2.8	1.2
E. 自分ひとりでできること	4.8	18.9	41.9	23.8	6.4	2.9	1.4
F. 人助けができること	10.7	44.6	33.2	5.8	1.3	3.2	1.2
G. 社会の役に立つこと	14.9	49.0	27.5	3.8	1.1	2.5	1.1
H. 自分で働く日や時間を決められること	11.0	38.7	32.9	11.6	2.2	2.5	1.1
I. 人と接する機会があること	12.8	44.9	29.1	8.9	1.8	1.6	0.9

―チャンスをあきらめるか―

第 3 問　あなたは，家庭生活のために，就職の機会や昇進などの仕事上のチャンスをあきらめたことがありますか。また，今後あきらめることがあると思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. あきらめたことがあるし，今後もあきらめることがあると思う …… 22.1 %
2. あきらめたことがあるが，今後はあきらめることはないと思う ……8.7
3. あきらめたことはないが，今後はあきらめることがあると思う …… 19.6
4. あきらめたことがないし，今後もあきらめることはないと思う …… 24.4
5. わからない …… 24.5
6. 無回答 ……0.7

―満足できない仕事を続けるか―

第 4 問　あなたは，家庭生活のために，満足できない仕事でも続けたことがありますか。また，今後続けることがあると思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 満足できない仕事を続けたことがあるし，今後も続けることがあると思う …… 28.0 %
2. 満足できない仕事を続けたことがあるが，今後は続けることはないと思う …… 17.0
3. 満足できない仕事を続けたことはないが，今後は続けることがあると思う …… 14.2
4. 満足できない仕事を続けたことはないし，今後も続けることはないと思う …… 21.4
5. わからない …… 18.8
6. 無回答 ……0.5

―差別を受けたことがあるか―

第 5 問　あなたは，この 5 年の間に，就職・昇給・昇進といった仕事上のことで，差別を受けたことがありますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 受けたことがある（→ Q6 へ）……8.5 %
2. 受けたことはない（→ Q7 へ）…… 64.3
3. 仕事や求職をしていない（→ Q7 へ） …… 23.0
4. 無回答 ……4.3

【Q5 で「1」（差別を受けたことがある）とお答えの方に】

―差別を受けた主な理由―

第 6 問　あなたは，ご自身が差別を受けた主な理由は，何だったとお考えですか。最もあてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 年齢 …… 36.8 %
2. 人種，民族 ……0.0
3. 国籍 ……0.8
4. 性別 ……6.0
5. 宗教 ……0.8
6. 障害，心身の病気 ……8.3
7. 家庭の事情 ……6.0
8. 政治的信条 ……0.8
9. その他の理由 …… 33.8
10. わからない ……6.8
11. 無回答 ……0.0

（該当者＝ 133 人）

―ハラスメントを受けたことがあるか―

第 7 問　あなたは，この 5 年の間に，職場の上司や同僚から，いじめや身体的・精神的な攻撃といったハラスメント（嫌がらせ）を受けたことがありますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 受けたことがある …… 17.5 %

2. 受けたことはない …… 51.9
3. あてはまらない（この5年間仕事をしていない，上司や同僚がいない） …… 29.2
4. 無回答 ……1.3

―労働組合についての考え方―

第8問　あなたは，次のA，Bの意見について，そう思いますか，それともそう思いませんか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 労働者の利益を守るためには，強い労働組合が必要である	19.5	28.5	25.9	5.2	6.5	12.7	1.7
B. 日本の経済にとって，強い労働組合があることは好ましくない	3.6	7.1	37.8	13.2	18.3	17.4	2.6

―働き方の選択―

第9問　あなたが今，次の中から働き方を選べるとしたら，どれを選びますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
1. 正規雇用の仕事（週35時間以上）…… 48.8 %
2. パートタイムの仕事（週10時間以上35時間未満） …… 23.4
3. 勤務時間が週10時間未満の仕事 ……6.9
4. どんな働き方でも仕事はしたくない ……7.2
5. わからない …… 12.5
6. 無回答 ……1.2

―仕事の有無―

第10問　あなたは，現在，何か収入を得るための仕事をしていますか。なお，休職や休暇などで，一時的に仕事をしていない方は，「1」（仕事をしている）に○をつけてください。
1. 仕事をしている（→Q11へ）…… 62.2 %
2. 仕事をしていない（→Q32へ）…… 36.7
3. 無回答 ……1.0

【Q11～Q31は，Q10で「1」（仕事をしている）とお答えの方に】

―収入と労働時間―

第11問　労働時間と収入の関係についておたずねします。主な仕事の収入と労働時間について，次の中から1つだけ選ぶとしたらどれを選びますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。なお，労働時間には，時間外労働も含めてお考えください。
1. 今より労働時間が長くなっても，収入が多いほうがよい …… 30.0 %
2. 今と同じくらいの労働時間と収入でよい …… 52.1
3. 今より収入が少なくなっても，労働時間が短いほうがよい ……9.7
4. わからない ……7.5
5. 無回答 ……0.7

（該当者＝979人）

―就いている仕事への評価―

第12問　あなたの現在の仕事についておたずねします。次のAからHについて，それぞれ1つずつ○をつけてください。2つ以上，仕事をお持ちの場合は，主な仕事についてお答えください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 失業の心配がない	25.4	23.1	24.1	6.4	16.5	3.7	0.7
B. 収入が多い	3.3	12.2	28.6	19.0	34.7	1.4	0.8
C. 昇進の可能性が高い	1.7	6.1	23.9	13.3	46.7	6.9	1.3
D. おもしろい	15.1	29.2	29.0	10.2	13.1	2.5	0.9
E. 自分ひとりでできる	12.8	13.9	18.4	11.5	41.1	1.3	1.0
F. 人助けができる	20.4	28.3	27.4	8.1	10.6	4.2	1.0
G. 社会の役に立つ	22.6	33.5	27.1	6.1	6.1	3.8	0.8
H. 人と接する機会がある	51.2	27.8	11.4	4.0	3.9	1.0	0.7

（該当者＝979人）

―健康への影響―

第13問　あなたの仕事には，次のA，Bのようなことがどの程度ありますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. いつもある	2. よくある	3. ときどきある	4. ほとんどない	5. まったくない	6. わからない	7. 無回答
A. きつい肉体労働をしなければならないこと	8.0	12.4	30.7	27.6	19.6	0.8	0.9
B. ストレスを感じること	18.4	28.8	36.8	11.3	3.1	0.9	0.7

（該当者＝979人）

―勤務形態―

第14問　それでは，あなたの仕事には，次のA，Bのようなことがどの程度ありますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. いつもある	2. よくある	3. ときどきある	4. ほとんどない	5. まったくない	6. わからない	7. 無回答
A. 勤務時間内に自宅で働くこと，在宅勤務	7.0	3.4	6.6	12.9	66.8	2.0	1.2
B. 土曜・日曜に働くこと	24.5	21.5	28.5	12.3	11.4	0.9	0.9

（該当者＝979人）

―勤務時間の柔軟性―

第15問　あなたの勤務時間は，どのように決まっていますか。次の中から最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. はじめと終わりの時刻が決められており，勝手に変えられない …… 63.5 %
2. 一定の枠内でなら，はじめと終わりの時刻を自分で変えることができる …… 20.8
3. はじめと終わりの時刻を好きなように決めることができる …… 14.6
4. 無回答 …… 1.0

（該当者＝979人）

―勤務時間の変動―

第16問　あなたの主な仕事の勤務時間について，次の中から最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 決まった勤務時間（日中，夕方，夜間など）がある …… 80.6 %
2. 定期的に勤務時間が変わる（日中から夕方へ，日中から夜間へなど）…… 8.1
3. 直前に勤務時間を告げられる …… 3.3
4. わからない …… 6.6
5. 無回答 …… 1.4

（該当者＝979人）

―仕事の裁量―

第17問　あなたの毎日の仕事の進め方について，次の中から最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

毎日の仕事をどう進めるかを…

1. 自分で自由に決められる …… 17.6 %
2. ある程度，自分で決められる …… 53.0
3. 自分で決めることはできない …… 26.8
4. わからない …… 2.0
5. 無回答 …… 0.6

（該当者＝979人）

―仕事中の私用時間―

第18問　あなたが仕事中に，家の用事や個人的な理由で，仕事を1，2時間離れることはどのくらい難しいですか。次の中からあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. まったく難しくない …… 10.4 %
2. それほど難しくない …… 36.8
3. やや難しい …… 25.4
4. 非常に難しい …… 23.6
5. わからない …… 3.2
6. 無回答 …… 0.6

（該当者＝979人）

―仕事と家庭生活―

第19問　あなたは，次のA，Bのようなことをどの程度感じますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

（%）	1. いつも感じる	2. よく感じる	3. ときどき感じる	4. ほとんど感じない	5. まったく感じない	6. わからない	7. 無回答
A. 仕事が，家庭生活の妨げになること	1.8	8.1	29.2	38.3	19.6	2.0	0.9
B. 家庭生活が，仕事の妨げになること	1.1	2.9	17.3	46.6	28.7	2.3	1.1

（該当者＝979人）

―これまでの経験が仕事で役立っているか―

第20問　あなたが，これまでの仕事で得た経験や身につけた技能は，現在の仕事にどのくらい役立っていますか。次の中からあなたのお考えに近いものに1つだけ○をつけてください。

1. ほとんど役立っていない …… 6.8 %
2. 少し役立っている …… 35.2
3. かなり役立っている …… 32.8
4. ほぼすべて役立っている …… 19.2
5. わからない …… 5.2
6. 無回答 …… 0.7

（該当者＝979人）

―技能向上のための研修の受講―

第21問　この1年の間に，あなたは職場やそれ以外の場所で，仕事の技能を高めるための教育・訓練・研修を受けたことがありますか。

1. ある …… 41.1 %
2. ない …… 56.4
3. わからない …… 2.2
4. 無回答 …… 0.3

（該当者＝979人）

―職場の人間関係―

第22問　あなたの職場では，次のAやBにあげた関係はうまくいっていますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

（%）	1. 非常に良い	2. まあ良い	3. どちらともいえない	4. 少し悪い	5. 非常に悪い	6. わからない	7. 無回答
A. 経営者と従業員の関係	8.5	41.4	26.9	7.4	4.2	10.5	1.2
B. 職場の同僚どうしの関係	11.0	52.9	19.6	5.5	2.5	6.8	1.6

（該当者＝979人）

―仕事の満足度―

第23問　あなたは，今の仕事にどのくらい満足していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。2つ以上，仕事をお持ちの場合は，主な仕事についてお答えください。

1. 完全に満足している …… 2.6 %
2. 満足している …… 16.6
3. まあ満足している …… 40.3
4. どちらともいえない …… 17.1
5. 少し不満である …… 11.8
6. 不満である …… 7.3
7. まったく不満である …… 2.8
8. わからない …… 1.2
9. 無回答 …… 0.3

（該当者＝979人）

―職場に関する意識―

第24問　あなたは，次のAからCについて，そう思いますか，それともそう思いませんか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 今勤めている企業や組織が発展するように，進んで与えられた以上の仕事をしたい	14.4	32.9	29.2	8.9	9.7	4.3	0.6
B. 今勤めている企業や組織で働いていることに誇りを感じる	12.9	31.7	31.3	9.4	9.7	4.5	0.6
C. 今よりかなり高い給料をくれると誘われても，転職しないで今の組織にとどまりたい	13.6	18.6	29.1	10.0	20.4	7.6	0.7

（該当者＝979人）

―職種への態度―

第25問　働いている企業や組織ではなく，あなたの職種についておたずねします。次のA，Bについて，あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. チャンスがあれば，職種を変えたい	13.0	14.3	21.8	12.9	34.1	3.4	0.6
B. 自分の職種に誇りを持っている	20.8	30.3	30.5	6.9	7.6	3.5	0.3

（該当者＝979人）

―今の職場の評価―

第26問　あなたにとって，少なくとも今の仕事と同じくらいの条件の仕事を見つけることは難しいと思いますか。それとも，簡単だと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 非常に簡単である ……2.0 %
2. やや簡単である ……7.9
3. どちらともいえない …… 23.3
4. やや難しい …… 29.0
5. 非常に難しい …… 33.3
6. わからない ……4.3
7. 無回答 ……0.2

（該当者＝979人）

―転職の可能性―

第27問　今後1年の間に，あなたが，ほかの企業や組織に転職する可能性はどの程度あると思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. かなりある ……5.5 %
2. 少しある …… 11.8
3. あまりない …… 15.5
4. ほとんどない …… 61.5
5. わからない ……5.3
6. 無回答 ……0.3

（該当者＝979人）

―失業の心配―

第28問　あなたは，失業の心配をどのくらいしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. とても心配している ……8.2 %
2. ある程度心配している …… 17.5
3. 少しは心配している …… 36.6
4. まったく心配していない …… 37.6
5. 無回答 ……0.2

（該当者＝979人）

―失業しないために―

第29問　あなたは，失業しないために，次のAからFのような条件を受け入れてもよいと思いますか。それぞれについて1つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 新しい技能が必要な仕事をしてもよい	18.9	30.9	22.6	7.0	14.0	5.9	0.6
B. 今より給料が低い仕事をしてもよい	3.7	11.6	22.8	18.1	39.1	4.1	0.6
C. 期間契約の仕事をしてもよい	5.1	14.1	19.8	14.4	40.3	5.4	0.8
D. 今よりも通勤時間が長くなってもよい	6.5	17.1	17.2	16.9	38.3	3.1	1.0
E. 国内で転居してもよい	4.8	9.0	12.0	10.9	57.9	4.8	0.6
F. 国外で仕事をしてもよい	4.5	5.4	7.7	5.6	71.2	4.9	0.7

（該当者＝979人）

―副業―

第30問　この1年の間に，あなたは，主な仕事のほかに，収入を得るために何か仕事をしたことがありますか。次の中からあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

主な仕事のほかに，別の仕事をしたことが…

1. 1年間ずっとあった（→Q31へ）……3.1 %
2. 1年のうちほとんどの期間あった（→Q31へ）‥1.4
3. 1年のうちいくらかはあった（→Q31へ）……6.2
4. 1年間まったくなかった（→Q45へ）…… 87.3
5. 無回答 ……1.9

（該当者＝979人）

【Q30 で「1」「2」「3」（主な仕事のほかに，収入を得るために何か仕事をした）とお答えの方に】

―副業による収入―

第 31 問　この 1 年の間に，あなたが副業で得た収入は，主な仕事と比べてどうでしたか。次の中からあてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。2 つ以上，副業をお持ちの場合は，副業すべてについてお答えください。

主な仕事以外の副業で得た収入は…

1. 主な仕事よりかなり少なかった（→ Q45 へ）‥ 45.7 %
2. 主な仕事より少なかった（→ Q45 へ）…… 28.6
3. 主な仕事と同じくらいだった（→ Q45 へ）‥‥ 16.2
4. 主な仕事より多かった（→ Q45 へ）……2.9
5. 主な仕事よりかなり多かった（→ Q45 へ）……2.9
6. わからない（→ Q45 へ）……2.9
7. 無回答 ……1.0

（該当者＝ 105 人）

【Q32 ～ Q44 は，Q10 で「2」（仕事をしていない）とお答えの方に】

―仕事の経験の有無―

第 32 問　では，あなたは，これまでに 1 年以上仕事に就いたことがありますか。

1. ある（→ Q33 へ）…… 61.9 %
2. ない（→ Q36 へ）…… 37.7
3. 無回答 ……0.3

（該当者＝ 578 人）

【Q33 ～ Q35 は，Q32 で「1」（ある）とお答えの方に】

―仕事をやめた時―

第 33 問　省略

―やめた仕事の満足度―

第 34 問　あなたは，最後に従事していた仕事にどのくらい満足していましたか。次の中からあてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 完全に満足していた ……5.0 %
2. 満足していた …… 25.4
3. まあ満足していた …… 40.2
4. どちらともいえない …… 14.8
5. 少し不満だった ……7.5
6. 不満だった ……4.5
7. まったく不満だった ……2.0
8. わからない ……0.3
9. 無回答 ……0.3

（該当者＝ 358 人）

―仕事をやめた理由―

第 35 問　あなたが，その仕事をやめた主な理由は何ですか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 定年など退職（引退）する年齢になったから ‥ 28.2 %
2. 早期退職（引退）を選んだから ……6.1
3. 早期退職（引退）をさせられたから ……1.4
4. 身体上の事情で働けなくなったから …… 18.2
5. 会社が倒産したり，職場が閉鎖されたりしたから ……4.7
6. 解雇されたから ……1.1
7. 雇用期間や契約期間が終了したから ……5.3
8. 家庭の事情があったから …… 22.6
9. 結婚したから …… 11.2
10. 無回答 ……1.1

（該当者＝ 358 人）

―就職の希望―

第 36 問　あなたは，今後，仕事に就きたいと思いますか。

1. 就きたいと思う（→ Q37 へ）…… 34.3 %
2. 就きたいとは思わない（→ Q43 へ）…… 64.4
3. 無回答 ……1.4

（該当者＝ 578 人）

【Q37 ～ Q42 は，Q36 で「1」（今後，仕事に就きたいと思う）とお答えの方に】

―仕事がみつかる可能性―

第 37 問　今後，仕事がみつかる可能性は，どの程度あると思いますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. かなりある …… 18.2 %
2. 少しある …… 34.3
3. あまりない …… 16.2
4. ほとんどない …… 14.6
5. わからない …… 15.7
6. 無回答 ……1.0

（該当者＝ 198 人）

―仕事がみつからない心配―

第 38 問　あなたは，仕事がみつからないことをどのくらい心配していますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. とても心配している …… 16.7 %
2. ある程度心配している …… 28.3
3. 少しは心配している …… 32.8
4. まったく心配していない …… 21.2
5. 無回答 ……1.0

（該当者＝ 198 人）

―仕事に就くために―

第 39 問　あなたは，仕事に就くために，次の A から F のような条件を受け入れてもよいと思いますか。それぞれについて 1 つずつ○をつけてください。

（%）	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 新しい技能が必要な仕事でもよい	15.2	27.8	22.2	13.6	12.6	6.1	2.5
B. 給料が低い仕事でもよい	8.6	14.6	27.3	22.2	23.7	2.0	1.5
C. 期間契約の仕事でもよい	15.7	13.6	17.2	16.7	26.8	7.6	2.5
D. 通勤時間が長くてもよい	2.5	5.1	13.6	18.2	56.1	2.0	2.5
E. 国内で転居してもよい	3.0	5.6	11.6	9.1	63.1	5.1	2.5
F. 国外で仕事をしてもよい	5.1	4.5	8.1	4.0	71.2	4.5	2.5

（該当者＝ 198 人）

―求職―

第 40 問　あなたは，この 1 年の間に，仕事をさがすために，次の A から F のようなことを何回くらいしましたか。それぞれについて 1 つずつ○をつけてください。

(%)	1. したことはない	2. 1，2回	3. 3回以上	4. 無回答
A. 公共の職業安定所に申し込みをした	79.8	13.6	4.0	2.5
B. 民間の職業紹介所に申し込みをした	91.4	4.0	0.5	4.0
C. 求人広告に応募した	83.8	9.6	2.5	4.0
D. インターネットや新聞に求職の広告を出した	92.4	3.5	0.0	4.0
E. 雇用主に直接申し込みをした	89.4	4.0	1.0	5.6
F. 親せきや友人や同僚に，職探しを手伝ってくれるように頼んだ	83.8	11.1	1.5	3.5

（該当者＝ 198 人）

―能力向上のための研修の受講―

第 41 問　この 1 年の間に，あなたは，仕事の能力を高めるための教育・訓練・研修を受けたことがありますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 受けたことがある …… 13.1 %
2. 受けたことはない …… 78.3
3. わからない …… 8.1
4. 無回答 …… 0.5

（該当者＝ 198 人）

―仕事をさがしているか―

第 42 問　現在，あなたは，仕事をさがしていますか。

1. さがしている …… 32.8 %
2. さがしていない …… 67.2
3. 無回答 …… 0.0

（該当者＝ 198 人）

―経済的な支え―

第 43 問　あなたの生活を経済的に支えているものは何ですか。次の中から主なものに 1 つだけ○をつけてください。

1. 現在の配偶者やパートナー …… 28.0 %
2. 配偶者以外の家族 …… 13.0
3. 年金（公的年金または私的年金） …… 48.8
4. 失業手当 …… 0.7
5. 社会保障・福祉手当 …… 1.9
6. 臨時の仕事 …… 0.3
7. 学生ローンや奨学金 …… 0.3
8. 貯金 …… 3.6
9. 投資による収益や家賃所得 …… 1.6
10. その他（具体的に　　） …… 0.2
11. 無回答 …… 1.6

（該当者＝ 578 人）

―経済的な支えを失う心配―

第 44 問　あなたは，Q43 でお答えになった経済的な支えがなくなることをどのくらい心配していますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. とても心配している …… 42.6 %
2. ある程度心配している …… 24.9
3. 少しは心配している …… 21.8
4. まったく心配していない …… 9.3
5. 無回答 …… 1.4

（該当者＝ 578 人）

―5 年前と比べた暮らし向き―

第 45 問　あなたの暮らし向きは，5 年前と比べて，良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中からあてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

5 年前と比べて…

1. かなり良くなった …… 4.4 %
2. どちらかといえば，良くなった …… 14.9
3. 変わらない …… 40.9
4. どちらかといえば，悪くなった …… 26.8
5. かなり悪くなった …… 9.5
6. わからない …… 3.4
7. 無回答 …… 0.1

―5 年後の暮らし向き―

第 46 問　それではあなたの暮らし向きは，5 年後には，今と比べて良くなると思いますか。それとも悪くなると思いますか。次の中からあてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

5 年後には，今と比べて…

1. かなり良くなると思う …… 3.4 %
2. どちらかといえば，良くなると思う …… 12.3
3. 変わらないと思う …… 30.5
4. どちらかといえば，悪くなると思う …… 31.3
5. かなり悪くなると思う …… 11.8
6. わからない …… 10.6
7. 無回答 …… 0.1

―高齢者の雇用―

第 47 問　次の A，B の意見について，そう思うか，そう思わないか，それぞれについて 1 つずつ○をつけてください。

(%)	1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば，	3. どちらともいえない	4. そう思わないどちらかといえば，	5. そう思わない	6. わからない	7. 無回答
A. 60 歳以上の人を雇用するのは，日本の経済のために良いことだ	40.8	34.0	14.6	2.7	2.4	5.0	0.6
B. 60 歳以上の人を雇用すると，若い人の仕事を奪うことになる	5.3	13.0	26.4	17.2	32.0	4.9	1.3

―心身の健康状態―

第 48 問　あなたは，ご自分の心や体の健康状態についてどう感じていますか。次の中からあてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

1. 最高によい …… 2.5 %
2. とてもよい …… 10.3
3. よい …… 19.4
4. 普通 …… 45.5
5. よくない …… 20.8
6. わからない …… 1.3
7. 無回答 …… 0.2

サンプル構成

全　体

全体	性		年層						
	男性	女性	16～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,573	750	823	64	138	204	272	265	313	317
100.0%	47.7	52.3	4.1	8.8	13.0	17.3	16.8	19.9	20.2

全体	男の年層						女の年層					
	16～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上	16～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,573	91	97	116	141	154	151	111	107	156	124	159	166
100.0%	5.8	6.2	7.4	9.0	9.8	9.6	7.1	6.8	9.9	7.9	10.1	10.6

全体	都市規模					地域				
	特別区と人口100万以上の市	人口30万以上の市	人口10万以上の市	人口5万以上の市町村	人口5万未満の市町村	北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州
1,573	293	328	396	289	267	198	560	247	239	158	171
100.0%	18.6	20.9	25.2	18.4	17.0	12.6	35.6	15.7	15.2	10.0	10.9

有 職 者　※Q10で「仕事をしている」と回答した人

全体	性		男の年層			女の年層		
	男性	女性	16～39歳	40～59歳	60歳以上	16～39歳	40～59歳	60歳以上
979	534	445	146	246	142	145	207	93
100.0%	54.5	45.5	14.9	25.1	14.5	14.8	21.1	9.5

全体	勤めている・雇用されている			それ以外
	正規雇用【正規の職員または従業員】	非正規雇用【パート・契約社員・派遣社員等】	その他・無回答	自分で商売や仕事をしている
979	447	356	17	159
100.0%	45.7	36.4	1.7	16.2